四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

NO.２７

平成 28 年 11 月 24 日

★平成二十八年度 森林総合監理士育成研修事業「実践研修（現地検討）四国」を開講！

★十月二十五日～二十七日の三日間、将来の森林総合監理士を育成するため、「実践研修（現地検討）四国」を開講しました。

◆当研修は、地域の特性等を踏まえた、森林・林業の再生に向けた課題を設定し、現地での検討を通して課題の背景と解決策を見い出し共有することを目的に実施するものです。

◆今年度の研修生は、これまでのブロック研修等の受講生も含め、希望者を募り、四国四県より、一三名（県職員七名、国有林職員四名、民間二名）を対象に、局二階大会議室を主会場に開講しました。

★十月二十五日（初日）

開講式では、木村次長から研修生に対して激励の挨拶がありました。

挨拶する木村次長

その後、高知県大豊町の高知おおとよ製材（株）において、岡田取締役工場長による「大型製材工場の課題と今後の対応」について講義を受講後、工場内で現地調査を行い質疑・応答で終了しました。

おおとよ製材工場内

製材工場での講義

受講生は、この講義で、「川上側、川中側、川下側がそれぞれ需要を共有することが最も大切である。」との内容に感銘を受けていました。素材生産現場においても、市場では、どのような製品を求めているか常に考えることが大切であると切のことを胸に刻み一日目を終了しました。

★十月二十六日（二日目）

◆二日目は、香美市香北町にある香美森林組合の事業地（民有林）で現地調査を行いました。

◆現地は約六・五ヘクタール（皆伐二・五ヘクタール）で、急傾斜地の作業路網の作設が困難で、架線集材により木材搬出が行われていました。

架線集材現場

◆説明では、香美森林組合で「森林の工場」としてあるこの程度の集約化、まだまだ多くの不在地主が多く、境界の確定に困難を極めていることや、架線集材の本体である「集材機」が不足していることと、作業員不足もあることなどの説明があり改めて厳しい現状を認識しました。

◆午後からは、高知県立森林技術センターにて、「一貫作業とコンテナ苗」の講義、また、森林総合研究所関西育種センター、四国育種場育種保存園において、エリートツリーの現地実習を行いました。

コンテナ苗の説明

エリートツリーの前で

◆その後、局に戻り、高知県に向けて「原木増産体制づくり」について講義を受けた各班で二日間の「原木増産体制づくり」の取組みについて、初日に各班で・実施の講義を通して、調査を習熟し、対策を発表してもらいました。

★十月二十七日（最終日）

◆三日目は、「四国地域における課題」について講義を受講。続いて、ニホンジカ食害対策の現状とニホンジカ食害対策の対応策等について、各班で演習を実施しました。

発表する研修生

◆地域の林業に対するレクチャーの見方について、森林研修生は、「理論と実践」の講義を受け、監視の目を常に広く全体を意識することが重要である。

◆閉講式では、田口部長から将来のフォレスターへの期待を込めた挨拶があり、集合写真を撮影して三日間の研修を無事に終了しました。

今回受講の研修生

★職員の異動がありました。

★紹介が大変遅れましたが、十月一日付で、芹口竜一業務係長が、保全課の企画係長に異動となっています。

★併せて、森林技術普及専門官に、渡辺督巳（まさみ）氏（資源活用課素材供給係長より）が新任として配属されていますのでよろしくお願い致します。

★なお、業務係長は、副所長が事務取扱となっています。